

所 属 有限会社 北陽水産
氏 名 かがみ あきひこ
利見 明彦 (47歳)
船 名 だいはちじゅうはちみょうじんまる
第 八 十 八 明 神 丸 145 トン
漁業種類 ベニズワイかにかご漁



～重い責任感を受け止め、人生を楽しむベニズワイガニ籠漁師～

大きなバンに乗って現れた、強い存在感を纏ったかに籠漁師の利見さん。ベニズワイガニ籠漁の漁場は外国漁船も横行する外洋であり、トラブルも多い。そして、利見さんが船頭を務める船は、進水式を終えたばかりの最新船である。それらの不安や責任感が、利見さんに強い存在感を纏わせているのだろうと思った。しかし、取材を通して見えたのは、重圧を受け止め、はじけるような笑い声と共に人生を楽しむ海の男の姿だった。

利見さんは、中学卒業後に漁師の道に進んだ。その後、沖底船で経験を積んだ後、現在に至るまでカニ籠船で漁師を続けている。カニ籠漁を続ける理由は稼ぎが良いからだと言見さんは語る。お金は、家族の為に使う。残りのお金は趣味のバイクに使い、休日は岡山 of サーキットで運転している。

取材の帰り際に、自慢のバイクを見せて頂いた。バイクは、あの大きなバンに格納されており、いつでも乗れるように持ち運んでいるようだ。控えめに表現しても、カッコいいバイクだった。羨ましい。

～力よりテクニック～

体力や力では劣るが、まだまだ若い者には負けないと語る利見さん。特に、カニ籠運びには自信があるようだ。カニ籠は重く普通に運ぶのは困難を極める。しかし、お腹に引っかけるように運ぶと楽に運べるようだ。スマートな体型を持つ若者には真似出来ない。

(文責：藤岡 秀文)